

【開催中】～5月13日(火) ひこねびょうぶ
特別公開「国宝・彦根屏風」



▲紙本金地著色風俗図 (彦根屏風)

5月16日(金)～6月17日(火)

テーマ展「雅な舞 - 井伊家伝来の舞楽装束 -」



華やかに宮廷文化を彩った舞楽は、雅楽(ががく)を伴奏として舞う舞で、曲に合わせてさまざまな装束が使われます。井伊家には、雅楽器とともに多数の舞楽装束が伝来しました。これら舞楽を彩る装束を、初めて紹介します。

◀舞楽面 陵王

ギャラリートーク「雅な舞 - 井伊家伝来の舞楽装束 -」

5月17日(土) 14:00～15:00

解説：彦根城博物館学芸員

※事前申し込みは不要です。当日、当館展示室1にお集まりください。

観覧料が必要です

常設展示の名品

ほんものとの出会い

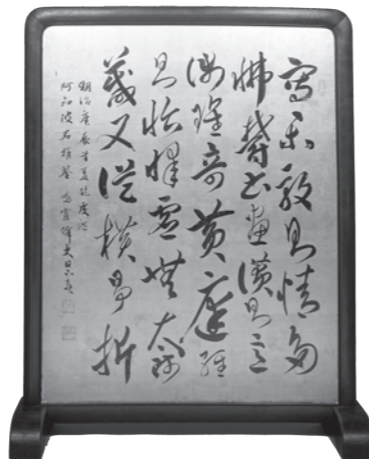
— 常設展示の名品 —

常設展示「「ほんもの」との出会い」では、譜代大名筆頭・井伊家に伝来した名宝を中心に、80点余りを展示しています。

【展示中】～6月16日(月)

孫過庭「書譜」日下部鳴鶴筆

中国・唐代の有名な書家、孫過庭の書を、彦根藩士出身で日本近代を代表する書家、日下部鳴鶴が写したものです。鳴鶴が本格的に書を学び始めた43歳時の名品です。



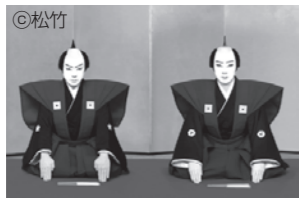
※5月14日(水)・15日(木)は、展示替えのため一部閉室しています。

文化プラザだより

6月18日(水) グランドホール
13:00～(12:30開場) / 17:30～(17:00開場)

市川亀治郎改め四代目市川猿之助

九代目市川中車 襲名披露



■演目
「太閤三番叟」
「口上」
「一本刀土俵入」

指定 一等席7,000円 二等席5,000円 三等席3,000円【発売中】

6月19日(木) 14:00～(13:00開場)
グランドホール

綾小路きみまろ
爆笑スーパーライブ2014

「中高年のアイドル」綾小路きみまろが人生の悲哀をユーモラスに漫談形式で語ります!

指定 S席5,500円 A席5,000円【発売中】
※18歳未満入場不可



6月29日(日) 15:00～(14:30開場) メッセホール

小林顕作「絵本の読み聞かせ」

NHK「みいつけた」で人気のオフロスキーこと小林顕作による絵本の読み聞かせです。

※どなたでもご参加いただけます。

自由 大人2,000円 子ども1,000円 (子どもは3歳以上小学6年生以下)
【5月10日(土)発売】

8月10日(日) 15:00～(14:30開場) グランドホール

劇団四季ファミリーミュージカル「ふたりのロツテ」

指定 S席大人4,500円 子ども3,000円 (子どもは3歳以上小学6年生以下)
A席大人3,500円 子ども2,000円 (3歳未満は入場できません)
【5月10日(土)発売】

9月14日(日) 17:00～(16:30開場) グランドホール

小曾根真コンサート featuring No Name Horses

世界のジャズピアニスト小曾根真率いるスーパーバンド No Name Horses 結成10周年ツアー。エンターテイナー精神あふれるステージをお楽しみください。

指定 一般6,000円【5月24日(土)発売】※未就学児入場不可

【各公演 発売初日の予約の取り扱いについて】

※電話予約・インターネット予約のみの受付となります。
※窓口でのチケット引き取り・販売は翌開館日から承ります。

5月の休館日 7日(水)、12日(月)、19日(月)、26日(月)

5月の休館日 7日(水)、12日(月)、19日(月)、26日(月)

とまきの玉手箱

博物館からのメッセージ

華やかな舞の装束 - 井伊家伝来の舞楽装束 -

彦根城博物館が所蔵する井伊家伝来資料には、数多くの雅楽器が含まれています。その数は260点余におよび、日本を代表する雅楽器コレクションとして有名です。実は、これに加えて、大名家には珍しく舞楽装束コレクションも所蔵しています。そもそも雅楽とは、奈良時代に中国や朝鮮半島などからもたらされた楽舞と、日本古来の伝統的な楽舞を総合した芸能です。宮廷や寺社の祭礼、貴族らによる遊興の場で盛んに行われ、最盛期の平安時代には宮廷文化を華やかに彩りました。現在の雅楽は、その一部が今に受け継がれたものです。

井伊家伝来の舞楽装束は、樗や鉾といった舞具も含め、全部で30点余。これらとは別に、舞楽で使用する面9点も伝わっています。これらを誰が集めたかを記す史料は見つかっていませんが、いずれも、井伊家12代直亮(1794～1850)の収集品と考えられます。



▲写真1 太平楽 鉾

また、直亮自身が舞楽を行っていたことが分かる古文書の他、プロの楽人を呼び寄せて行った舞楽の配役の記録や、直亮の手にあつたと思われる舞楽装束の目録も残されています。これらから見て、現在残されている舞楽装束は、直亮によって収集されたものと考え、間違いのないでしょう。ただし、目録の記述からみて、本来は更に大揃のコレクションだったようです。



▲写真2 胡蝶 羽根

りとなつています。また、童舞の胡蝶で使用する羽根(写真2)は、蝶の羽根を模して五色で彩色し、金色の金具を付けた色鮮やかなもの。子どもの舞人がこれを背負って舞う様は、実に可憐だったことでしょう。

武士である大名らしい嗜みと言えは、武芸や能楽、茶道が、まず思い浮かぶと思います。しかしそれだけではなく、雅楽や舞楽に象徴される宮廷文化の雅びな世界も、大名家では楽しんでいました。それを、井伊家伝来の華やかな舞楽装束は教えてくれます。(彦根城博物館学芸員 茨木恵美)

写真の作品は、テーマ展「雅な舞 - 井伊家伝来の舞楽装束 -」で5月16日(金)から6月17日(火)まで展示します。(期間中無休)